

北海道大学の教育改革・学生支援に関する取組

(令和2年度版)



本パンフレットの発行にあたって

本パンフレットは、北海道大学における全学的な教育改革や学生支援についての取り組みの要諦を紹介するものです。このような取り組みは、本学の教育改革室や高等教育推進機構において一歩ずつ進められているもので、各学部及び大学院での種々の取り組みと並行して、特に本学の創基150年の節目となる2026年に向けた「北海道大学近未来戦略150」に即して企画立案され、実行されつつあるものです。

本学の「近未来戦略150」では、特に「専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見、並びに異文化理解能力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材の育成」を教育の目標として掲げています。そしてまた、この目標は、平成28年度から開始された第3期中期目標・中期計画期間における教育に関する目標の柱ともなっており、本パンフレットに取り上げられた様々な取り組みは、とりわけ全学教育や総合教育のプロセスにおいて積極的に試みられています。そして、これらの試みは、単に一つの授業科目ばかりでなく、本学全体における様々なレベルの教育にも応用可能なものとなるよう発展させるべきものでもあると言えます。これらの試みが各学部及び大学院における専門教育にも活用され、本学全体の教育の革新が進み、真に「世界の課題解決に貢献する人材」の育成に資することができるよう、教職員や関係の皆様方のご理解とご協力が得られることを祈念するものです。

北海道大学理事・副学長
高等教育推進機構長・教育改革室長
山口 淳二

教育内容及び教育の成果等に関する中期目標

専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見並びに異文化理解力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する。

教育に関する中期計画①

グローバルに活躍する力を養うため、第2期中期目標期間に開設した全学横断的な教育プログラムである「新渡戸カレッジ(学士課程)」及び「新渡戸スクール(大学院課程)」をさらに充実させた教育内容で実施し、両プログラムにおいて合わせて延べ1,000名以上の修了者を輩出する。また、新渡戸カレッジ及び新渡戸スクールにおいて、学生の学修過程を可視化できる修学ポートフォリオを開発し、各学部・研究科等においても順次導入する。

取組1 新渡戸カレッジ

国際社会の発展に寄与する人材を育成するため、平成25年度に学士課程向け特別教育プログラムとして創設された「新渡戸カレッジ」と、平成27年度に大学院特別教育プログラムとして開始された「新渡戸スクール」は、令和元年度に統合し、6年一貫の特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」となりました。

本プログラムは、基礎プログラム及びオナーズプログラムで構成され、学部教育コースでは、学士課程学生を対象とし、学部教育と並行して豊かな人間性・国際性を育むために取り入れられた各種教育を実践しています。また、大学院教育コースでは、修士課程及び専門職学位課程学生を対象とし、各分野における高度な専門性に立脚し、その専門性を活用する能力、すなわち〈能力更新力〉、〈組織形成力〉、〈社会還元力〉、〈専門職倫理〉を高めることにより、国際社会における創造的な課題解決及び社会的価値の創出を実現できる専門家を育成するための各種教育を、大学院教育と並行して実践しています。

学部教育コース

■特長

- 自律的な個人の確立と専門能力を高める留学制度
- リーダーシップに必要なスキルとマインドを育む独自のカリキュラム
- 国際経験の豊かな同窓生等からなるフェロー・メンターによるキャリア支援

■基礎プログラムの必修科目

グローバル基礎科目

- ・国際社会における課題や各研究分野の状況、留学の実態などを知り、キャリアデザインの観点から留学の目的と意義を考え、自分自身の留学の目的と計画を設定する
- ・リーダーシップについて自分の考えを深め、チームの中で自ら望ましいリーダーシップを発揮することを目指す

留学支援英語

- ・英語によるコミュニケーション能力を伸ばす
- ・留学時に必要なアカデミックスキルを修得する

新渡戸学(フェローゼミ)

- ・フェローの主導により、現地視察の中から課題を発見し、グループワークを通して課題解決方法を探る

大学院教育コース

■特長

- 多様な価値観で構成される国際社会の縮図
- 異なる専門分野の知見を生かし、各自の専門分野を深化させる領域横断的環境
- 徹底したチーム学習とアクティブ・ラーニング
- 教員、大学院メンターが生み出す新たなネットワークによるキャリア支援



「新渡戸学(フェローゼミ)」現地視察の様子

■学修支援制度

新渡戸ポートフォリオ

- ・オンラインの学修・研究履歴記録システムであり、研究活動や新渡戸カレッジでの学修を記録し、振り返りができる

奨学金制度

- ・オーナーズプログラム生を対象に、学修支援を目的とした奨学金と海外における学修・研究の促進を目的とした奨学金の二つの奨学金制度を実施

大学院メンター

- ・学生のキャリア意識の涵養、社会的視野の拡大、人的ネットワークの形成を支援する



メンターフォーラムの様子

本学HP>新渡戸カレッジ(学部)

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/u>

本学HP>新渡戸カレッジ(大学院)

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/g/>

教育に関する中期計画②

学生の主体的な学びを促進させるため、教育環境の整備を進め、アクティブ・ラーニング及び情報コミュニケーション技術等を活用した授業科目の開講数を増加させる。また、社会的ニーズに対応し、全学部を横断する新たな共通科目群を開設するとともに、ビジネス・スキル、専門職倫理等の授業科目を開設する。

取組2 「全学教育科目」に係る各種取組

主に1年次生を対象とした「全学教育科目」(教養科目及び基礎科目)は、全部局の協力体制の下、充実したカリキュラムで実施しています。第2期、第3期中期目標期間においては、次の取り組み等を実施しました。

取 組	取 組 内 容
共通カリキュラムの編成	総合入試の導入に伴い、文系・理系ごとの共通カリキュラムを編成。
少人数授業の充実	英語演習に「上級：留学支援英語」、一般教育演習(20名程度のクラス)に「多文化交流科目」、「グローバル・キャリア・デザイン」、「フィールド型演習」を新設。
双方向型授業の充実	双方向遠隔授業、アクティブ・ラーニングのための教室をそれぞれ4室整備し、テレビ会議システムによる遠隔授業や複数のプロジェクター・スクリーンを使用したチーム学習に活用。
英語による授業の拡大	ネイティブ教員による「留学支援英語」のほか「英語資格試験対策講座」及び「キャンパス英語」を新設。理系基礎科目の物理学、生物学及び数学に、英語による授業を新設。平成29年度より主題別科目に、英語による授業を新設。平成30年度より総合科目の特別講義に、ビジネス・スキル科目を新設。



高等教育推進機構のアクティブ・ラーニング教室

取組3 専門横断科目

より多様で幅広い教養を獲得すること、学際的な教養を獲得すること、専門性を追究する上で必要とされる新たな知識や手法を身につけること、及び多様な価値観を理解して国際感覚を養成することを目的として、令和元年度から、新たに専門科目を開講し、サマーズインスティテュート、海外留学、実践英語に関する科目を開講しています。

本学HP > 学生生活 > 教務情報 > 専門横断科目履修案内

<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/instruction-info/class/>

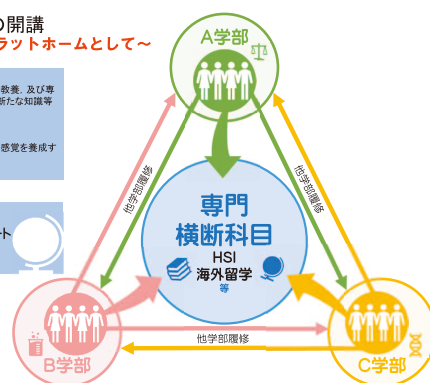
『専門横断科目』の開講
～学士課程教育のプラットフォームとして～

多様で幅広い教養、学際的な教養、及び専門性を追究する上で必要とされる新たな知識等を獲得するためのプラットフォーム

多様な価値観を理解して国際感覚を養成するためのプラットフォーム

開講科目

- サマーズインスティテュート
- 海外留学
- 実践英語



取組4 北海道地区国立大学との連携実施事業

■教養教育連携事業

北海道地区国立大学では、単位互換協定に基づき、双方向遠隔授業を主体とした教養教育の連携実施事業を推進しています。平成27年度から本格実施として、各大学から100科目以上の授業科目が提供されました。また、平成30年度以降の科目数について、連携大学との協議により、これまでの配信科目実績状況の検証・整理を行い、年60科目以上を配信することを決定し、各大学から約90科目の授業科目が提供されています。双方向遠隔授業を効果的に実施するにあたり、FD研修会の実施やTA等授業支援スタッフの育成を行うとともに、デジタル教材を活用した反転授業やアクティブ・ラーニングの手法を導入した新たな授業方法の普及に取り組んでいます。本事業により、各大学から特色ある授業が提供されることで、学生は多様な授業を履修することが可能となっています。



双方向遠隔授業

本学HP > 国立大学教養教育コンソーシアム北海道

<https://www.nucla-hokkaido.jp/>

■学部・大学院入学前留学生教育プログラム

北海道地区国立大学では、学部・大学院入学前留学生教育の実施に関する協定に基づき、各大学への入学直後の留学生及び大学院進学を希望する外国人留学生に対し、学修・研究に際して最低限理解しておくべき知識やスキル等の修得に役立つ教育プログラムをeラーニングにて提供しています。北海道地区国立大学間で一元的・集約的に実施することにより、効果的かつ効率的に正規課程進学後の教育効果向上、円滑な正規課程への移行・定着支援に取り組んでいます。なお、教育プログラムは、日本人学生にも有益な内容が含まれていることから、令和元年度から日本人学生の受講も可能にしました。

取組5 オープンエデュケーションセンター

オープンエデュケーションセンターは、ICTおよびオープン教材活用による教育・学習支援、教育改善・改革支援を目的に2014年に設置されました。2015年からはCoSTEPと一つになり、より広い教育・学習と改善の支援、新たな教育の実践、教育と広報の連携などに取り組んでいます。

■e-ラーニング部門

学内の教育改善やオープン教材開発の支援、新たな教育手法の開発及び導入を進めています。高等教育推進機構S講義棟にはアクティブ・ラーニングに対応した講義収録室を設置しています。また、全学の教育支援としてELMSの管理運用を担当しています。本センターのOER(Open Educational Resources)を活用した教育改善への取り組みは、新しい学習の可能性・学力向上に役立つ様々なコンテンツ・サービス、ならびにソリューションに対する功績に与えられる日本e-Learning大賞の「オープンエデュケーション特別部門賞」を受賞しました。



高等教育推進機構の講義収録室

本学HP > 大学案内 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > オープンエデュケーションセンター

<https://www.open-ed.hokudai.ac.jp/>

■科学技術コミュニケーション教育研究部(CoSTEP)

科学技術の専門家と一般市民との橋渡しを担う科学技術コミュニケーターを養成しています。大学院生や社会人が受講可能で、講義・演習・実習を通して1年間学びます。オンライン授業を活用し、全国から受講生が参加しているのも特徴です。教育と広報を連携させており、サイエンス・カフェ札幌やFacebookページ「いいね!Hokudai」を企画・運営しています。また、これらの教育・実践のノウハウやネットワークを学内他組織と共有し、コミュニケーション教育・広報を支援しています。

本学HP > 大学案内 > 学部・大学院・センター等 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > Communication in Science & Technology Education & Research Program

<https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/>

取組6 数理・データサイエンス教育

文系・理系を問わず、全学部生が数理・データサイエンスの基礎的素養を身に付け、数理的思考やデータ分析力を駆使して、社会の問題を解決する手法を見出すことができる人材の育成を目指し、「数理・データサイエンス教育研究センター」が学内共同教育施設として平成29年7月に設置されました。

数理・データサイエンス教育研究センターの取組

北海道大学では、学部教育において、文理を問わず2,500名を超える全入学者を対象として、数理・データサイエンスに関する基礎的素養を醸成する教育を展開します。さらに、幅広く提供されたデータや実社会からの課題を活用した実践的な教育を通して、課題解決力を有する人材を育成します。「北海道データサイエンスネットワーク」を構成する道内の大学・高専から招へい教員が参画し、他大学に展開可能な実践的教育プログラムの実現に向けて検討を進めています。また、センターでは、効果的なデータサイエンス教育を実現するICT基盤として、「数理・データサイエンス教育プラットフォーム」を開発しています。e-ラーニングを効果的に取り入れた修学環境を整備し、プログラミング演習やオンラインテストの実施も可能とします。当センターは、全国6大学コンソーシアムの「教育用データベース分科会」において主査を務め、各大学で使用する教育用データの収集や利用環境の整備に向けた議論を牽引しています。また、平成30年度からは修士教育、博士人材育成についても補助事業に採択され、学部教育とシームレスに連携する一貫した人材育成モデルの整備を推進しています。

本学の数理・データサイエンス教育の特長

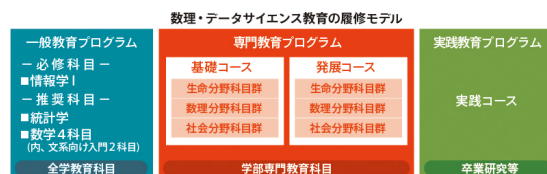
文系・理系を問わず、様々なデータを適切に扱うことができる素養を有し、各自が習得する専門分野において実践的なデータを扱うことができる力を養う教育に取り組みます。具体的には、全学を対象とした「一般教育プログラム」、学部2年生以上を対象とした「専門教育プログラム」、及び主に卒業研究に取り組む学生を対象としたオーダーメイド型の「実践教育プログラム」を計画しています。また、気軽に自主参加で学べる数理やデータサイエンス関係のセミナーも随時開催しています。本センターは、これらの教育プログラムによって「数理的思考やデータ分析・活用」の一般的素養を有する人材の養成から「データサイエンスの実践的な課題解決能力を有する人材の養成」までを目指します。「一般教育プログラム」は、令和元年度から開始しており、全ての1年生が必修科目として「情報学I」を受講します。「専門教育プログラム」は、令和2年度から開始しており、各学部の専門科目から適切なものを抽出し学部横断的に開講します。

自主的な学びの場「ラーニング・コモンズ」

実践教育プログラムでは、主に卒業研究時の学部生を対象とした個別指導を行います。この打ち合わせや各種セミナーに使う施設が「ラーニング・コモンズ」。ラーニング・コモンズでは、勉強会や自主的なセミナー（自主ゼミ）、プログラミング演習、機械学習の入門的セミナーなど、いろいろな企画を進めていきます。

本学HP > 大学案内 > 学部・大学院・センター等 > 学内共同施設(教育施設) > 数理・データサイエンス教育研究センター

<https://www.mdsc.hokudai.ac.jp/>



ラーニング・コモンズ

教育に関する中期計画③

第2期中期目標期間に導入したナンバリング制度、国際通用性のあるきめ細かなGPA制度等を活用し、教育課程のさらなる体系化と学修成果の検証体制の構築を推進する。また、全学部・研究科等において、積極的にクォーター制の導入を推進し、平成28年度までに全学部を導入するとともに、平成31年度までに、全学部・研究科等においてアセスメント・ポリシー(学修成果の評価方針)を策定する。

取組7 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

本学の「基本理念と長期目標」に基づく、学士課程及び大学院課程全体の「ディプロマ・ポリシー(DP)」・「カリキュラム・ポリシー(CP)」及び大学全体のDP・CPを踏まえた、各学部・研究科等のDP・CPを策定しました。

本学HP > 大学案内 > 目標・計画・実績 > 教育に関するポリシー等 > 北海道大学の教育における3つの方針

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/threehoushin/>

取組8 アセスメント・ポリシー

学修成果の把握に基づく、教育課程の効果的な点検・改善体制を整備するために、全学の指針となる「北海道大学アセスメント・ポリシー」を決定し、平成30年度に各学部、研究科等においてアセスメント・ポリシー及びアセスメント・チェックリストを策定しました。

本学HP > 大学案内 > 目標・計画・実績 > 教育に関するポリシー等 > 北海道大学アセスメント・ポリシー

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/plan/policy/assessmentpolicy/>

取組9 授業科目ナンバリング制度

順次性のある体系的な教育課程の構築を目的として、授業内容・レベル等に応じて授業科目に特定のナンバーを付し、教育課程表やシラバス等に記載する次のナンバリング制度を導入し、本学の全授業科目でナンバリングを実施しました。

ナンバリングコード [ABC_DE1234]

ABC:開講部局等 DE:学科等 1:レベル 2:中分類(学問分野) 3:小分類(学問分野) 4:言語

本学HP > 大学案内 > 役員・運営組織 > 総長室・評価室・広報室等 > 教育改革室 > 順次性のある体系的な教育課程の構築に向けて～ナンバリング実施の手引き

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/education/numbering.pdf>

取組10 新GPA制度, 学修成果の質に基づく成績評価, 厳格な卒業認定基準

平成27年度学士課程入学者から、国際通用性の向上ときめ細かな成績評価を実現するため、次の新GPA制度を導入しています。

- 1 成績を海外大学と同様に「A・B・C・D・F」に+, -を付した11段階により評価。
- 2 合格基準のGP値を1.0から2.0に、最上位のGPを4.0から4.3に引き上げ。
- 3 成績評価は「学修成果の質」に基づいて成績のグレードを判断し、GPを付与。

また、10学部において、この新GPA制度に基づく「卒業時の通算GPA2.0以上」を卒業認定基準として導入しています。

新GPA制度 本学HP > 広報・公開 > 情報公開等 > 北海道大学規則集 > 第3編 学務 > 北海道大学におけるGPA制度の取扱いに関する要項

https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG00000819.html

卒業認定基準 本学HP > 広報・公開 > 情報公開等 > 法令等に基づく公表事項 > 学校教育法施行規則第172条の2に規定する情報 > 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること > 1. 学部

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/gakusyu-gakubu2.pdf>

取組11 カリキュラムマップ

授業科目のナンバリング制度、国際通用性のあるきめ細かなGPA制度等を活用し、教育課程のさらなる体系化と学修成果の検証体制構築を推進する方策のひとつとして、平成29年度に各学部、研究科等においてカリキュラムマップを作成しました。

本学HP > 学生生活 > 教務情報 > 各学部・研究科等のカリキュラムマップ

<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/instruction-info/folder955/>

取組12 学位論文評価基準

学位論文に係る評価の客観性及び厳格性を担保するため、研究科・学院ごとに「学位論文に係る評価基準」を策定しました。

評価基準では、学位論文の審査において、どのような能力を測るのか、どのような点が評価されるのか、また、論文の要件・構成等について、課程ごとに定められています。

本学HP > 広報・公開 > 情報公開等 > 法令等に基づく公表事項 > 学校教育法施行規則第172条の2に規定する情報 > 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/gakkyoho/gakkyoho2/index.html>

取組13 授業アンケート

平成28年度から、全ての学部において授業アンケートを実施しています。

なお、全学教育科目では、授業アンケート(学生による授業評価)の結果を教員にフィードバックすることによる授業の質の向上を目指し、以下のとおり実施しています。

- ① 質問に対する5段階評価形式と自由記述式
- ② 各担当教員は、少なくとも1年間に1科目実施
- ③ 平成28年度から、全ての授業科目においてコアカリキュラム(教養科目)の理念が実現されているかについて調査
- ④ 平成28年度から、学生からの意見や教員の改善策等を報告書にとりまとめて、ホームページ(学内限定)に公表
- ⑤ 平成30年度第2学期から、Webにより実施

本学HP > 大学案内 > 学部・大学院・センター等 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > 授業アンケート

<https://www.high.hokudai.ac.jp/class-questionnaire/>

取組14 国際化に対応した柔軟な学事暦

教育改革室では、学生がより海外留学しやすい環境を整備し、国際的流動性の向上を図るため、平成28年度に①全ての学年をクォーター制とする、②留学しやすい特定の学年・学期のみクォーター制とするなど、それぞれの学部・大学院の実情に応じた「柔軟な学事暦」を導入しました。こうした「柔軟な学事暦」は、全ての学部と15の大学院において導入されています。

教育に関する中期計画④

国際社会の発展に寄与する人材を育成するため、ジョイント・ディグリー・プログラムをはじめとする海外大学との共同教育プログラムを新たに10件以上開設するなど、国際通用性のある大学院教育を実施する。

取組15 コチュテル・プログラム、ダブル・ディグリー・プログラム、ジョイント・ディグリー・プログラム

グローバル教育を推進するための方策の一つとして、令和元年度までに、8大学院でダブル・ディグリー・プログラムを、10大学院でコチュテル・プログラムを導入しました。今後はジョイント・ディグリー・プログラム制度の導入を予定しています。

■コチュテル・プログラム

外国の大学と連携し、博士論文作成にかかる研究指導を両大学が共同で行うもの。学位記は本学から授与され、コチュテル・プログラムの修了が付記される。

■ダブル・ディグリー・プログラム

外国の大学と連携し、同じ学位レベルの教育プログラムを開設し、単位互換等を通じ、プログラム参加学生がそれぞれの大学の卒業・修了要件を満たした際に、各大学がそれぞれ学位を授与するもの。

■ジョイント・ディグリー・プログラム

外国の連携大学と共同で一つの教育課程を構築するもの。学生は本学と連携大学の両方に在籍し、プログラムの修了時には、各大学連名の学位記が授与される。

取組16 大学院共通授業科目

既存の研究科等の垣根を越えた総合的・学際的な教育の発展と、大学院教育における専攻分野に関する分野の基礎的素養の涵養を目的として、全学の大学院生が受講可能な共通授業科目を開設しています。平成28年度からは、Hokkaidoサマー・インスティテュートの科目も追加され、約360の授業科目から、これまで以上に幅広い分野の学修が可能となりました。

本学HP > 学生生活 > 教務情報 > 大学院共通授業科目履修案内

<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/instruction-info/gclass/>

教育の実施体制等に関する目標

教育の質を向上させるため、教育力・教育支援力を高度化する体制を整備する。

教育の実施体制等に関する中期計画①

教職員等の教育力・教育支援力を高めるため、平成27年度に開設した「高等教育研修センター」において、ニーズに対応したファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)等の研修プログラムを一元的に開発し、実施する。また、英語による授業を拡充するため、英語を母語とする講師によるFDプログラムを拡充する。

取組17 ティーチング・フェロー制度

大学院教育の実質化を進め、学士課程教育の充実を図ることを目的として、ティーチング・アシスタント(TA)制度に加え新しい制度であるティーチング・フェロー(TF)制度を平成27年度から導入しています。TF制度は、本学の大学院教育の一環として、TFとして採用した博士課程学生に、教員と分担しながら学士課程の授業を担う機会を与えることで、ティーチングにかかわる技能を高め、経験の蓄積を促し、将来の大学教員のみならず幅広い分野において指導的な役割を果たす人材の養成を図ります。

取組18 高等教育研修センター

平成27年4月1日高等教育推進機構に設置しました。

本センターには、3つの部門(ファカルティ・ディベロップメント部門、スタッフ・ディベロップメント部門、ラーニングサポート部門)が置かれ、FD・SD等、教育・研究及び業務全般の高度化及び国際化に必要な資質の向上を目的とした研修等を実施しています。また、授業に関する教員からの相談、カリキュラムやポリシー等に関する部局単位での相談も受け付けています。

(各部門の主な取り組み)

FD部門	・教育ワークショップ: 新任教員を対象とするアクティブ・ラーニングの手法やシラバスの書き方に関する研修 ・国際化対応FD研修: 英語で授業を行う場合の注意事項、発音等を学ぶための研修 ※令和元年度には、新規の研修・ワークショップを10回主催(全体で42回のFD研修を主催) ・TF研修会: 新任TFを対象とするTFの心構えや大学教育の基礎の理解、学習指導の基本を習得するための研修 ・TA研修会: 新任TAを対象とするTAの心構えや役割の理解を深めるための研修
SD部門	・実用的な英会話運用能力の向上を目指す国際系研修 ・学生指導・支援等業務を学ぶ学生・教務系研修 ・教員参加の下でキャリアアップ等に関する議論を行う職員セミナー
LS部門	ラーニングサポート室(LSO): 北海道大学の総合入試制度に関して、進路選択・修学支援(令和元年度の個別相談対応は969件)、学習支援(令和元年度の個別相談対応は1,932件、学生向け各種セミナー、自習用学習資料の作成・配布(令和元年度の配布数は計9,839部)、学生向け倫理教育教材の作成)、データ分析(新入生～卒業年次の各学年アンケートや予備志望調査の分析など)を実施

高等教育研修センター

本学HP > 大学案内 > 学部・大学院・センター等 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > 高等教育研修センター

<https://ctl.high.hokudai.ac.jp/>

ラーニングサポート室

本学HP > 大学案内 > 学部・大学院・センター等 > 運営組織・その他 > 高等教育推進機構 > 修学設計・学習支援 Learning Support Office

<https://lso.high.hokudai.ac.jp/>

教育の実施体制等に関する中期計画②

総長直轄のマネジメント組織である卓越人材育成推進室を中核として、国内外機関との連携により高度な知のプロフェッショナルを輩出する卓越大学院プログラムを推進し、その取組や成果を大学院全体の教育改革へ波及させるための教育環境を整備する。

取組19 大学教育 大学院教育改革ステーション

大学院教育改革ステーションは、全学的視点での大学院教育プログラムのコーディネート等を目的とした組織として、令和2年3月1日、高等教育推進機構に設置され、学内で展開されている様々な教育プログラムの個性と多様性を尊重しつつ、本学の大学院教育改革に関する次の4つの機能を果たします。

探査機能：学内外（外国を含む）におけるグッドプラクティスの調査

調整機能：プログラム基礎部分の共通化やプログラム共通の枠組みの整序

配分機能：各プログラムへの支援やそれらの間の教育資源の最適化

構築機能：各プログラムに関係する補完的あるいは新規の構想立案・プログラム構築

本ステーションは、これら4つの機能を通じ、主に本学の基本理念の実現のほか、全学、学生及び各学院等に対してそれぞれ重要な役割を担うものであり、現在の大学院が直面している問題点や課題の解決に貢献することが期待されています。

学生への支援に関する目標

総合的な学生支援体制の下、多様な背景を持つ学生への支援を充実させる。

学生への支援に関する中期計画①

学生が安心・安全で充実したキャンパスライフを送ることができるようにするため、学生支援組織間の連携を強化し、進路・履修相談、経済的支援、就職支援、キャリア支援等の取組を実施する。また、奨学金及び授業料免除については、既存制度の検証を行い、よりきめ細かな支援制度に改善する。

学生への支援に関する中期計画②

全ての学生にとって教育の機会が公平に提供されるキャンパスを目指し、特別修学支援室の体制整備など、障がいのある学生を支援する体制を拡充させるとともに、教職員・学生を対象とした継続的な研修を実施する。また、平成29年度までにバリアフリー整備計画を策定し、ユニバーサルデザインに配慮したキャンパスに整備する。

取組20 学生相談 総合センター

学生相談総合センターは、平成30年8月1日付けで、学内共同施設（特定業務施設）として、本学における学生相談、修学支援その他の学生支援に関する専門的業務を一体的に行うことにより、本学の学生の人間形成の促進並びに本学全体の教育及び研究の発展に寄与することを目的に設置され、平成31年3月に学生交流ステーション2階に統合移設しました。本学における学生相談の包括的拠点としての学生相談総合センターには、学生相談室、アクセシビリティ支援室、留学生相談室及びピアサポートユニットの3つの室と1つのユニットが置かれています。学生の個別相談、教職員・保護者とのコンサルテーション、FD・SD、各種セミナー・ワークショップ、関係機関との連携調整などを行います。

（内線8172）

学生相談室（月～金曜9:00-18:00（受付：17:00まで）、内線7463）

学生相談室では、大学生活の困り事や悩みの相談窓口として、臨床心理士が学生の相談に応じています。また、学生について教職員や保護者からの相談にも対応しています。

アクセシビリティ支援室（月～金曜9:00-17:00、内線7463）

アクセシビリティ支援室では、本学の学生が障害や病気などのために学修や研究を行う上で必要とする「合理的配慮」のサポートを行っています。また、修学上困ったり、悩んだりしている学生に、相談員による修学相談を行っています。

留学生相談室（月～金曜9:00-17:00、内線8001）

留学生相談室では、修学、進路、人間関係や文化的適応などの幅広い悩みについて留学経験のある臨床心理の専門家が留学生の相談に応じています。また、学生指導について、教職員に対するコンサルテーションも行っています。

ピアサポートユニット

*ピアサポートユニットには、学生相談部門、アクセシビリティ部門及び留学生部門の3つの部門が置かれています。

学生相談部門(学生相談ピアサポート)では、学生同士での気軽な相談場所として、ピアサポートルーム(月～金曜12:00-16:15 情報教育館2階)を設置しています。同部門では、様々な学部がピアサポーターとして学生の立場で相談に応じ、大学生活における様々な困りごとについて相談できる場として活用されています。

*アクセシビリティ部門では、学生が、ピアサポーターとして障害のある学生の情報保障(パソコンノートテイク、資料のテキストデータ化等)、移動支援その他必要な支援活動を行っています。

*留学生部門では、留学生が気軽に相談できる場所として、留学生サポート・デスク(月～金曜12:00-16:00 学生交流ステーション1階)を設置しています。先輩留学生等が、ピアサポーターとして日本語、英語、中国語などの言語で、留学生生活のさまざまな問題についての質問や相談に応じています。

◎学生相談総合センターと連携・協力している学生相談・支援機関

*全学の相談・支援機関

「保健センター」、「ラーニングサポート室」及び「ハラスメント相談室」があります。学生相談総合センターは、これらの機関と相互に連携・協力しています。

保健センター (内線5346)

医師による健康相談と応急的な診療を行っています。身体的・精神的な心配事がある学生の相談も対応しています。

ラーニングサポート室 (進路・履修相談は月～金曜9:00-17:00、学習サポートは9:00-18:00、高等教育推進機構E210/E211、内線7526)

博士号を持つ専門スタッフ4名が、総合入試入学者の進路選択・履修計画に関する相談や、日々の学習内容に関する相談に対応しています。また、進路選択のための資料や倫理教育教材の作成、学習に関するセミナー開催、自習用学習資料の作成など、幅広い学修支援を行っています。

ハラスメント相談室 (月～金曜9:30-18:00, soudan@general.hokudai.ac.jp, 内線2095, 2096)

ハラスメント等に関する専門的な知見を有する専門相談員が、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等に関する相談に対応しています。

*部局の学生相談室

いくつかの部局においては、部局独自の学生相談室も設置・運営されています。部局の定めるルールにしたがい、当該部局に所属する学生はそれら部局の学生相談室も利用できます。現時点では、文学部・文学院学生相談室、法学部・法学研究科学生相談室、理学部学生生活相談室、工学部系部局なんでも相談室、国際広報メディア・観光学院学生相談室、函館キャンパス学生相談室があります。

◎利用者である学生・学生指導に携わる教員の視点に立つ広報

平成30年4月より、上記相談機関を含む学内の全学生支援機関とその利用方法が一目でわかる広報パンフレット(学生参画プロジェクト)―「北大生のための相談先お助けガイド」―を作成し、全新生、全在学学生及び全教職員に配布しています。これは、学生・教職員の声を反映し、適宜改訂していきます。また、関連ホームページも、学生相談総合センターを中心に、利用者の視点を重視し充実化を進めています。

取組21 >>> キャリアセンターの各種取組 手厚い就職活動支援

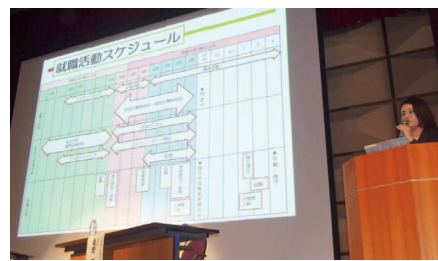
就職相談	キャリアコンサルタント(国家資格)・CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)資格を有する職員や学生指導経験豊富な教員が、相談テーマ(就職全般、自己分析、エントリーシート・履歴書作成、模擬面接、内定取扱いなど)に応じて対応しています。時間を確保した「予約制相談」と、予約不要・短時間の「フリー枠相談」があり、相談はスカイプ等のオンラインでも実施しています。
就職情報提供	センターの室内では、就活書籍(貸出可)、新聞、国家公務員(総合職・一般職)試験の過去問、企業・団体から提供されたOB・OG名簿、卒業生から提供された「就職サポーター名簿」や「就職活動レポート」などを閲覧できます。また、「就職支援システム」を利用すると、web上で各種就職ガイダンス・セミナーやキャリア相談の予約、求人情報やインターンシップ情報の閲覧が可能です。
就職ガイダンス・セミナー開催	就職活動に関する基礎的なガイダンスや、民間企業等志望者向け、公務員志望者向け、留学生向けなどの対象を絞ったイベントのほか、少人数ワークをメインとした実践型の「就活ミニ講座」などを開催しています。
インターンシップ(国内)	「全学インターンシップ」(学部生には全学教育科目の一環として単位認定)受入企業・団体の公募・開拓、参加学生との連絡調整のほか、中央省庁や地方自治体向けの手続きなどを行っています。



キャリアセンター(クラーク会館1階)



就職相談



就職ガイダンス・セミナー

[本学HP](#) > [学生生活](#) > [学生生活Q&A](#) > [就職・キャリア編](#) > [キャリアセンターHP](#)

<http://cc.academic.hokudai.ac.jp/>

入学者選抜に関する中期目標

広く世界に優秀な人材を求め、本学の教育を受けるにふさわしい学力・能力を備えた人材を多様な選抜制度により受け入れる。

入学者選抜に関する中期計画

第2期中期目標期間に導入した、入学後に所属する学部を決める「総合入試」制度を検証する。また、ボーダレスなグローバル社会をリードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜するため、平成30年度入試から国際バカロレア等を用いた「国際総合入試」を開始する。さらに、大学院課程を中心に、テレビ会議システム、海外オフィスを活用した渡日前入試を拡大するなど、国際化に対応した入学者選抜を実施する。

取組22 新たな総合型選抜「フロンティア入試」

大学や社会での新しい価値の創造を目指し、新しい時代を生き抜く素養と、本学で学びたいという強い意志を持つ学生を獲得するため、本学の総合型選抜は、令和4年度入試(令和3年度実施)から、コンピテンシー評価を選考に用いる「フロンティア入試TypeI」と、適性試験等を課す「フロンティア入試TypeII」に区分して実施することを決定しました。また、これに伴い、募集人員も、54名から144名へと大幅に拡大します。

[本学HP](#) > [入学案内](#) > [学部入試](#) > [入試の変更について\(予告\)](#) > [令和4年度 総合型選抜予告](#)

https://www.hokudai.ac.jp/admission/R04AO_change.pdf

取組23 国際総合入試

「北海道大学近未来戦略150」に掲げる「国際化に対応した入試制度改革」、及び文部科学省による大学入試における国際バカロレア資格の活用促進を踏まえ、新たな入学者選抜として、「国際総合入試」を平成30年度入試(平成29年度実施)から導入しました。本入試では、グローバル人材の育成のため、グローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜し、入学後は、学生にメンター(教員)を配置し、きめ細かな支援を行うとともに、新渡戸カレッジの活用により、国や地域、学問分野をこえて活躍できる学生を育成します。

本入試の特徴として、将来国際社会で活躍するための力を教育プログラムによって養成している「国際バカロレア」や、米国留学を目指す多くの者が受験する大学進学適性試験(SAT又はACT)を活用します。

[本学HP](#) > [入学案内](#) > [学部入試](#) > [国際総合入試](#)

<https://www.hokudai.ac.jp/admission/faculty/international/>

取組24 入学者選抜の検証と制度の検討

「入学後に自分の専門や所属する学部を決める」総合入試・総合教育制度に関しては、学生アンケートの結果から、総合入試制度に満足している学生の増加、希望どおり学部・学科等移行した学生の増加等がみられ、総合入試・総合教育制度が順調に機能していることを確認しています。また、志願者・入学者のうち、道外出身者の割合も増えてきており、全国から多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れることができています。現行の入試制度については、今後も引き続き検証していくとともに、新学習指導要領(平成30年告示)への対応や、アドミッション・ポリシーの見直し等についても検討していきます。

グローバル化に関する中期目標

徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、世界大学ランキングトップ100を目指すための取組を進める。

グローバル化に関する中期計画①

学際的な知的交流を促進するため、世界の研究者と協力して夏の北海道で国内外の学生を教育する「サマー・インスティテュート」、連携した海外大学で、本学と世界の学生が共に学ぶ「ラーニング・サテライト」等、多様な教育プログラムを展開する。これらにより、日本人学生の海外留学経験者を1,250名以上、外国人留学生の年間受入数を2,200名以上に増加させる。

グローバル化に関する中期計画②

外国人留学生及び海外留学する日本人学生を対象とした経済、生活、キャリア等に関する支援を充実させるとともに、日本人・外国人混住型宿舎、交流イベント等、日本人学生と外国人留学生が交流する環境を創出する。

取組25 サマー・インスティテュート、海外ラーニング・サテライト、日本人学生派遣プログラム

■Hokkaidoサマー・インスティテュート

Hokkaidoサマー・インスティテュートは、北海道大学に世界の第一線で活躍する優れた教育研究業績や活動歴を有する研究者等を招へいし、本学教員と協働で教育活動を実施するプログラムです。期間中は、アクティブ・ラーニング型の授業や広大な北海道の地を活かしたフィールド実習等、グローバル人材育成に資する先端的かつ魅力的な授業を多数実施します。授業は英語で行われ、世界中からの参加者とともに質の高い授業を受けられるほか、日本国内の方にとっては、日本に居ながらにして世界で活躍している研究者の授業を受講できる貴重な機会を提供します。本プログラムに参加することで、研究者や他国の学生等とのコミュニケーションを通じた異文化理解力、語学力及びコミュニケーション能力の向上等が期待されます。

■海外ラーニング・サテライト

本学教員と海外の大学等との共同教育プログラムが実施する本学の授業科目に、本学学生と海外大学等の学生が参加する共修環境を提供することで、世界の課題解決に貢献する人材を育成するとともに、海外大学の教員との協働による本学の教育の国際通用性や質の向上を目的としておりさらにはダブル・ディグリー・プログラムやコチューテル・プログラム等の共同教育への発展や、共同研究への展開につながることを期待しています。期間中は、座学での講義のほか、演習や実習、実験、フィールドワーク型等、様々な形態で授業が展開され、当該授業を履修した本学学生には本学の単位、海外大学等の学生には本学の単位又は海外大学等の単位を付与します。本学学生にとっては、海外大学等において開講される講義や実習等を通じて、現地学生とともに学ぶことで、海外での学生生活を疑似体験することができ、交換留学や大学院進学へ視野を広げる機会としても役立つプログラムです。



サマー・インスティテュート、海外ラーニング・サテライトにて開講された講義・実習の様子

■日本人学生派遣プログラム

①グローバル・キャリア・デザイン(通称ファースト・ステップ・プログラム(FSP))

短期プログラム・交換留学プログラムへ挑戦する最初の一步「ファーストステップ」として利用されることを期待した, 協定大学等での講義受講や学生交流, 国際機関や国際的に展開する企業等の現場見学や対話などを体験する約2週間のプログラム

②海外短期語学研修プログラム

海外に渡航する期間が数週間程度の語学学習及び異文化体験を中心とした, ほとんどが協定大学の提供するプログラム

③短期留学スペシャルプログラム

海外における異文化と歴史を理解し, 基礎的な専門知識を学ぶとともに, 交換留学プログラムや大学院における研究留学への動機づけとなることを目的としたプログラム

④国際インターンシッププログラム

学生の総合的な人間力を培う実践的キャリア教育として, 学生が自らの専門分野や進路に関連した企業等での研修を通して, 国際性とリーダーシップ力を醸成するとともに, グローバルな視点で自らのキャリアや進路を検討することを目的としたプログラム



短期留学スペシャルプログラム



グローバル・キャリア・デザイン



海外短期語学研修プログラム

Hokkaidoサマー・インスティテュート

[本学HP](#) > [国際交流・留学](#) > [特別教育プログラム](#) > [Hokkaido サマー・インスティテュート](#)

<https://www.hokudai.ac.jp/international3/folder20150515-003/summerprogram/>

海外ラーニング・サテライト

[本学HP](#) > [国際交流・留学](#) > [特別教育プログラム](#) > [海外ラーニング・サテライト](#)

<https://www.hokudai.ac.jp/international3/folder20150515-003/learning-satellite/>

日本人学生派遣プログラム

[本学HP](#) > [国際交流・留学](#) > [北海道大学から海外への留学](#) > [北大生のための留学ガイド](#)

https://www.oia.hokudai.ac.jp/be_global/

現代日本学プログラム課程(MJSP)は、外国人留学生を対象としたバイリンガル(日本語・英語)の学士課程プログラムで、平成27年度に創設され、平成30年度に第1期生を卒業生として輩出しました。日本学という地域ベースの研究と、文学、教育学、法学、政治学、経済学等の現代日本社会に係る専門分野の研究との融合を学術的特色としながら、次の4つをカリキュラムの基本方針としています。

- ・日本語習得のための集中的プログラム
- ・日本研究と専門的学問との相互交錯カリキュラム
- ・日本人学生とともに学ぶ環境
- ・多文化の北海道からの日本発見

日本語及び英語を高度に運用する能力並びに日本社会に関する深い知識を有し、日本のよき理解者として国際社会において中核的な役割を担う人材の育成を目的としており、所定の単位を修得し、卒業認定された学生には、学士(学術)の学位が授与されます。



日本語の授業風景



大学構内での記念写真

取組27 >>> Integrated Science Program



Integrated Science Program (ISP) は、外国人留学生を対象とした英語による理系学士・修士課程プログラムで、平成29年度に創設されました。学士課程では、入学後半年間で理系分野に関する幅広い知識を身につけ、その後、理系学部の諸分野から所属学科を選択し、学生本人の希望と成績により所属する学科が決定され、学びを深めることとなります。なお、現在、所属できる学部・学科は、理学部(物理学科・化学科・生物科学科(生物学専修分野))となっています。修士課程では、自身の興味に基づき、専門分野での研究をさらに進めることができます。学士・修士課程を通して、軸となる理系科目の講義は英語で実施されることに加え、人文社会科学を含む多様な教養科目や、初級日本語クラスの他にビジネス・スキル科目、リーダーシップ・マネジメント科目も履修できるよう設定されています。ISPでは国際的に活躍するために必要な専門的能力及びリーダーとしての資質を備えた理系の人材育成を目指しています。



大学構内での記念写真



ISP学生による実験風景

取組28 英語のみで学位取得が可能なコース

大学の国際化にあたっては日本語力を要しないコースの開設等を通じた教育課程のグローバル化は不可欠であり、また、英語コースは外国人留学生の受け入れを増加させるためだけでなく、日本人学生のグローバル化を促進するための方策にもなるという観点から、重点的に促進すべき取り組みとして認識し、全21大学院中、9大学院（工学院、総合化学院、獣医学院、環境科学院、農学院、理学院、生命科学院、国際食資源学院、国際感染症学院）に英語のみで修了できるコースを設置しています。

取組29 日本人・外国人混住型宿舎の整備

日本人学生と外国人留学生が交流する環境の創出及び、増加する外国人留学生の宿舎確保のために、混住型宿舎に居室を増やすための改修をはじめ、必要な整備を行っています。宿舎の将来計画の具体的な検討も進んでいます。

また、混住型宿舎の整備の一環として、居住する留学生の相談に応じ、生活上の指導、助言、サポート等を行うレジデント・アシスタントとして日本人学生を配置しています。

取組30 日本人・外国人留学生の交流イベント等

混住型宿舎において、レジデント・アシスタントの企画運営により、歓迎会・送別会、語学学習・文化交流を目的としたイベントを多数実施するとともに、地域のイベントへも参加しています。

さらに、留学生との交流や支援を行う各種団体の協力や支援を得て、学内外において、生活支援・文化交流・地域交流を目的としたイベントやツアーを数多く開催しています。これらの活動を通して、留学生と日本人学生や地域コミュニティとの交流の拡大とともに、日本人学生がリーダーシップや国際性を身につけることも期待されています。

Hokkaido
University

北海道大学の教育改革・学生支援に関する取組

数字は、対応する取組番号を示しています

高等学校		学部				大学院 (修士課程・専門職学位課程)		大学院(博士(後期)課程)			卒業生・修了生					
		1年	2年	3年 (3～5年)	4年 (6年)	1年	2年 (2～3年)	1年	2年 (2～3年)	3年 (4年)						
7 教育における3つの方針 ・入学受け入れ方針 ・教育課程編成・実施の方針 ・学位授与の方針 8 教学アセスメント 24 入学選抜の検証と制度の検討		入学多様な 選抜	厳格な学位授与方針による学位授与				入学多様な 選抜	厳格な学位授与方針による学位授与				入学多様な 選抜	厳格な学位授与方針による学位授与			
			順次性のある体系的な教育課程の編成					順次性のある体系的な教育課程の編成					順次性のある体系的な教育課程の編成			
			教育課程の効果的な点検・改善体制の整備													
入 試	進学相談会	24 一般選抜(総合・学部別)					一般入試		一般入試							
		22 総合型選抜,23 国際総合入試					社会人入試		社会人入試							
	オープン キャンパス	帰国子女入試					外国人 留学生入試		外国人 留学生入試							
	留学フェア等	私費外国人留学生入試 (学部・26 現代日本学プログラム課程・ 27 Integrated Science Program)														
教 育	1 新渡戸カレッジ(学部教育コース)					1 新渡戸カレッジ(大学院教育コース)										
	6 数理・データサイエンス教育プログラム															
	2 全学教育科目,4 教養教育連携実施事業															
	2,4 少人数授業,双方向授業					2,4 少人数授業,双方向授業										
	1,2,26,27 英語による授業					1,16 英語による授業										
	6 数理・データサイエンス教育研究センター					6 数理・データサイエンス教育研究センター										
	26 現代日本学プログラム課程															
	27 Integrated Science Program (ISP)					27 Integrated Science Program (ISP)										
	5 オープンエデュケーションセンター					5 オープンエデュケーションセンター										
	10 新GPA制度,学修成果の質に基づく成績評価, 厳格な卒業認定基準					12 学位論文評価基準										
	9 ナンバリング,11 カリキュラムマップ					9 ナンバリング,11 カリキュラムマップ										
	13 授業アンケート					13 授業アンケート										
	14 国際化に対応した柔軟な学事暦					14 国際化に対応した柔軟な学事暦										
	4 学部・大学院入学前留学生教育プログラム					4 学部・大学院入学前留学生教育プログラム										
3 専門横断科目					15 ジョイントディグリープログラム,ダブルディグリープログラム 15 コチュテルプログラム											
					16 大学院共通授業科目 17 ティーチング・フェロー制度											
18 高等教育研修センター(FD・SD研修,ラーニングサポート)					18 高等教育研修センター(FD・SD研修,ラーニングサポート)											
24 総合教育制度					19 大学院教育改革ステーション											
25 Hokkaidoサマーインスティテュート,海外ラーニングサテライト,日本人学生派遣プログラム					25 Hokkaidoサマーインスティテュート,海外ラーニングサテライト,日本人学生派遣プログラム											
学生支援	20 学生相談総合センター(学生相談室,アクセシ ビリティ支援室,留学生相談室,ピアサポートユ ニット(学生が利用できる常設機関:ピアサポ ートルーム,留学生サポート・デスク)),保健セン ター,ラーニングサポート室,ハラスメント相談室					20 学生相談総合センター(学生相談室,アクセシビリティ支援室,留 学生相談室,ピアサポートユニット(学生が利用できる常設機関:ピア サポートルーム,留学生サポート・デスク)),保健センター, ラーニ ングサポート室,ハラスメント相談室										
	授業料免除制度,奨学金制度,顕彰制度					授業料免除制度,奨学金制度,顕彰制度										
	課外活動支援,学生ボランティア活動相談室, 29,30 学生寮					課外活動支援,学生ボランティア活動相談室, 29,30 学生寮										
就職支援	※ 研究職志望の博士 (後期)課程大学院 生向けの支援は人材 育成本部で実施	21 就職相談					21 就職相談		21 就職相談		21 就職相談					
		21 就職情報提供					21 就職情報提供		21 就職情報提供		21 就職情報提供					
		21 就職ガイダンス・セミナー					21 就職ガイダンス・セミナー		21 就職ガイダンス・セミナー		21 就職ガイダンス・セミナー					
		21 インターンシップ					21 インターンシップ		21 インターンシップ		21 インターンシップ					

各取組の事務担当

- 取組1…教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室新渡戸カレッジ担当(学部教育コース:内線5414)(大学院教育コース:内線8187)
 取組2, 3, 13…教育推進課 全学教育・総合教育担当(内線5344)
 取組7, 8, 9, 10, 11, 14…学務企画課 教育企画・大学院担当(内線5249)
 取組4…教育推進課 北海道地区国立大学連携教育機構事務室(内線8083, 8086)
 取組5, 18…学務企画課 総務担当(内線5567)取組6…教育推進課 数理・データサイエンス教育研究センター事務室(内線4401)
 取組12, 15, 16, 17…学務企画課 教育企画・大学院担当(内線5253)
 取組19…大学院教育改革ステーション事務室(内線8053)
 取組20…学生支援課 学生相談総合センター事務室担当(内線8172)保健センター事務室担当(内線5347), 学務企画課 総務担当(内線5567)
 取組21…キャリア支援課 キャリア支援担当(内線2987, 3262, 3657)
 取組22, 23, 24 …入試課 試験実施担当(内線7481), 教育推進課 全学教育・総合教育担当(内線5083)
 取組25, 28…国際交流課 受入担当(内線8056)派遣担当(内線8054)共同教育担当(内線8146)
 取組26, 27…教育推進課 現代日本学プログラム・ISP担当(内線8048)
 取組29, 30…学生支援課 生活支援担当(内線8064)